ス ペ イ ン 語 学 科 履 修 案 内

（2006から2009年度入学者に適用）

【スペイン語学科の教育目標】

スペイン語学科の基本方針は，スペイン語を十分に身につけるとともに，スペイン語圏諸国の社会，文化，政治，経済などについて知識を深めることにある。同時に，英語が国際言語として重要な役割を果たしていることから，スペイン語とともに英語の能力を高め，二つの言語を駆使して国際社会で活躍できるよう，英語コミュニケーション特修副専攻コースを設けている。

このように本学科は国際社会で活躍する人材を育成することを目標としている。

【カリキュラムの概要と特色】

2006年度から2009年度までの入学生は，2006年度に導入されたカリキュラムが適用される。2010年度の入学生から適用される新カリキュラムと基本的な点では変わりはないが，細かな点で変更があるので，履修の際には注意が必要である。

スペイン語の学修については文法，講読，作文などのほかに，ネイティブによるコミュニケーションの授業にも力を注ぎ，総合的なスペイン語の運用能力を修得することを目標としている。

１年次および２年次にはスペイン語の学修が中心になる。３年次からは，スペイン語能力を一層強化するとともに，スペイン語圏諸国の文化や社会について学ぶ。そのため，言語研究，文学研究，地域事情研究など多くの科目が設けられている。

このほか，幅広い教養を備えた社会人の育成を目指し，他学部・他学科の開講科目も履修することができるようになっている。

海外留学にも力を入れており，毎年スペインのサラマンカ大学へ長期留学生や短期語学研修生を派遣している。また，本学科が認定するスペイン語圏諸国の大学に長期留学した場合も含め，留学先の大学で修得した科目は教授会の議を経て本学の卒業単位に換算されるため，４年間で大学を卒業することが可能となっている。

このように，各自の関心や将来の生活設計にしたがい，スペイン語の修得をベースにしながら，４年間の学修計画が自由に設計できるようになっているので，できるだけ早く方針を定め，意識的に履修科目を決定してほしい。

本学科ではセメスター制（半期制）が採られている。これは４年を８学期に分け，半期ごとに成績がつく制度であるが，科目により異なる点があるので，シラバス（講義要項）をよく読むこと。

本学科の科目はＡ群（必修科目と選択必修科目），Ｂ群（スペイン語圏の言語学，文化，社会などの研究のための選択必修科目），関連科目群から構成される。

Ａ群科目はスペイン語の修得のための科目であり，これは必修科目と選択必修科目とから構成される。後者の選択必修科目では各自の関心にもとづき履修科目を選ぶことができる。たとえばコミュニケーション能力を特に向上させたい学生は少人数制の特修スペイン語科目を中心に履修したり，あるいは読解力を高めたい学生は講読科目を中心に履修するなどの方法がある。

３年次からのＢ群科目でも，同じく語学，文学，地域研究などの科目のなかから各自の関心に従い履修科目を選択する。地域事情研究については，スペインとラテンアメリカの両地域の科目が設けられている。

関連科目では原則として本学の全学部全学科の専攻科目の履修が可能であり，各自が卒業後の進路に従い，たとえば英語科目中心，その他の外国語科目中心，国際関係科目中心といった風に，自由に履修科目を構成することができる。

なお，英語コミュニケーション特修副専攻コースの科目もこの関連科目群に含められる。

（１）英語コミュニケーション特修副専攻コースについて

〔教育目標〕

スペインやラテンアメリカ諸国の人々と交流し，理解し合うためには，何よりもまずスペイン語を十分に使いこなせなければならない。したがって，スペイン語学科の学生としては，まずスペイン語をしっかりと身につけ，スペイン語圏諸国の社会，文化，政治，経済などについて理解を深めることが必要である。

しかし，ラテンアメリカには英語を母語とする国々もあるだけではなく，現在，世界の共通語として英語の重要性は高まっている。国際理解を深め，世界で活躍するには英語は不可欠である。

この副専攻コースでは，高校まで学習してきた英語のコミュニケーション能力をいっそう高め，スペイン語と英語の二つの外国語を駆使して国際社会で活躍できる人材を育成することを目指す。

〔履修についての注意〕

この副専攻コースは外国語学部国際文化交流学科とタイアップしたものである。

1．外国語科目ならびに国際文化交流学科専攻科目の英語科目のうち，スペイン語学科が副専攻コース科目として指定する科目を，22単位以上修得した場合に，修了証書が授与される。
2．副専攻の登録は，１年次後期（１年次終了時）に行う。詳細は４月のガイダンスで説明する。
3．履修資格や人数に制約がある科目もあるので，国際文化交流学科のシラバス等に十分注意すること。
4．副専攻科目として指定された科目の修得単位は，関連科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。これは修得単位数が合計22単位に満たない場合も同様である。

「英語コミュニケーション特修副専攻」指定科目は次表のとおり。

配当群	１～４年次				修了要件
	授業科目（国際文化交流学科開講の専攻科目）	単位	授業科目（外国語科目）	単位	単位数
関連科目	英語理解演習ＡⅠ	1	英語（Oral Communication Skills）AⅢ	2	22単位以上
	英語理解演習ＡⅡ	1	英語（Oral Communication Skills）AⅣ	2	
	英語表現演習ＡⅠ	1	英語（Oral Communication Skills）ＡⅤ	2	
	英語表現演習ＡⅡ	1	英語（Oral Communication Skills）AⅥ	2	
	英語理解演習ＢⅠ	1	英語（Oral Communication Skills）BⅢ	2	
	英語理解演習ＢⅡ	1	英語（Oral Communication Skills）BⅣ	2	
	英語表現演習ＢⅠ	1	英語（Oral Communication Skills）ＢⅤ	2	
	英語表現演習ＢⅡ	1	英語（Oral Communication Skills）BⅥ	2	
	日本文化英語演習Ⅰ	1	英語（Oral Communication Skills）BⅦ	2	
	日本文化英語演習Ⅱ	1	英語読解・上級Ⅰ	1	
	国際文化英語演習Ⅰ	1	英語読解・上級Ⅱ	1	
	国際文化英語演習Ⅱ	1	英語作文・中級Ⅰ	1	
	ＣＡＬＬ／ＬＬ演習Ⅰ	1	英語作文・中級Ⅱ	1	
	ＣＡＬＬ／ＬＬ演習Ⅱ	1	英語作文・上級Ⅰ	1	
	海外英語研修	2	英語作文・上級Ⅱ	1	
			英語会話・中級Ⅰ	1	
			英語会話・中級Ⅱ	1	
			英語会話・上級Ⅰ	1	
			英語会話・上級Ⅱ	1	
			英語リスニング・中級Ⅰ	1	
			英語リスニング・中級Ⅱ	1	
			英語リスニング・上級Ⅰ	1	
			英語リスニング・上級Ⅱ	1	
			◎ＴＯＥＩＣ演習・中級Ⅰ	1	
			◎ＴＯＥＩＣ演習・中級Ⅱ	1	
			◎ＴＯＥＩＣ演習・上級Ⅰ	1	
			◎ＴＯＥＩＣ演習・上級Ⅱ	1	

◎は2007年度新設の科目を示す。

（２）日本語教員養成課程の履修について

日本語教員養成課程とは，日本語を母国語としない人々に第２言語として日本語を教える教員の免許状を取得するための課程である。

今，日本にはラテンアメリカ諸国からやってくる「日系人」が増えているが，こうした人々にとって日本語の習得が重要な課題となっている。また，ラテンアメリカ諸国内部でも日本語学習熱が高まっている。このように，今後，日本

語教員の需要はますます増していくものと思われる。

スペイン語をきちんと習得した上で，日本語教員の資格をもつことができれば，社会で活躍する場が広がることになる。

１．履修希望者は日本語教員養成課程説明会（４月）に必ず出席すること。

２．履修方法については必ず資格教育課程（日本語教員養成課程）の履修要覧・シラバスを参照すること。

３．国際文化交流学科専攻科目の「日本語教育研究科目群」（日本語教員養成課程の科目）は，関連科目単位として卒業要件単位に算入することができる。これにより，スペイン語学科学生にとって同課程を履修する際の負担はかなり軽減されている。

４．日本語教員養成課程を修了するだけではなく，さらに，財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格することが望ましい。

日本語教育研究科目群は次表のとおり。

配当群	２　～　４　年　次				合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	
関連科目	現代日本語学Ⅰ	2	日本語教育学Ⅰ	2	22単位以上
	現代日本語学Ⅱ	2	日本語教育学Ⅱ	2	
	現代日本語学Ⅲ	2	言語習得論Ⅰ	2	
	日本語学演習Ⅰ	2	言語習得論Ⅱ	2	
	日本語学演習Ⅱ	2	国際日本学	2	
	対照言語学	2			

【履修要領】

（１）卒業要件単位数は124単位である。

（２）Ａ群必修科目の「スペイン語演習Ⅰ・Ⅱ」（合計20単位）の修得単位数が14単位未満の者は，３・４年次配当のＡ群科目を履修できない。

（３）専攻科目のほかに，共通科目から32単位（「ＦＹＳ」２単位，「外国語科目」８単位，「教養系科目」22単位）以上を修得しなければならない。

（４）外国語科目は原則として英語８単位を修得しなければならない。